

令和7年度第1回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和7年10月7日(火) 10:00～

場所：北広島町役場本町 201 会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

町長

おはようございます。本日も忙しい中ありがとうございます。本町は第2次長期総合計画に基づき施策を進めてきた。この計画期間がR8年度で終了することから、これから町として目指す姿をどのように設定するのか、この会議で決めていきたい。町民の皆様にご理解いただける、住みたいと思っていただけるまちづくりについて検討していきたい。

脱炭素、農業の活性化、子育て支援の充実、若者定住対策等を進め、持続可能なまちづくりを進めていく。北広島町には神楽や花田植えなど伝統文化があり、人のよさもある、魅力あふれる町だと思っている。こうした北広島町の資源を生かしたまちづくりができるように、素晴らしい計画の策定をお願いいたします。

3. 委員紹介

奥田委員、山城委員、上原委員 欠席

4. 委員長、副委員長選出

委員長：安藤委員

副委員長：村口委員

に決定

5. 諮問

6. 議事

(1) 長期総合計画、総合戦略について

委員

総合計画の期間については10年間ということか。

現在の課題や進捗状況等については説明していただけるのか。

事務局

今後この会議にて説明させていただく。

委員

諮問の内容がわからない。いきなり計画をつくと言われても、ここでどんな議論をすべきなのかがわからないため、説明して示してほしい。

委員長

長期総合計画の策定について諮問をすると聞いている。委員の皆様には計画策定を任せるということではなく、町長は事務局の策定進捗について意見をくださいと問いかけている。策定にあたってはこれまでの何をしてきたか、今の策定進捗共有は必要であるが、今回は初回として、総合計画の前提や総合計画・総合戦略の大枠を示しており、その中でわかりにくいところがあればご質問いただきたい。

今後の委員会で様々な課題の説明があると思うが、それを踏まえて最終的にどう策定していくか決めていきたいと思う。

委員

総合計画をつくってくださいと言われても漠然としすぎてわからない。都度、情報共有頂けるといった認識でよろしいか。

事務局

全て1からの議論をしていくのではなく、ある程度こちらで進めていく中で、この方向性で行きたいということで案を出したものに皆様のご意見をいただく場として考えている。

前提としてどういうステップで策定していくかというのが必要かと思う。また、皆様には策定だけではなく、これまでの進捗についてもご審議いただく予定としている。

(2) スケジュールについて

(3) 住民アンケートについて

委員

2,000 人に無作為とのことだが、ネット回答が可能な場合、他の人に呼び掛けることは可能なのか。ア

ンケートへの意識は人によって違うが、私の周囲にはこういったアンケートに回答しやすい方が多い。私の SNS で紹介してもいいものであれば、そういった方法で回収率の向上も見込めるのではないかな。

事務局

いいアイデアをいただいた。SNS で発信というのは考えていなかったのですが、できるかどうかは検討させていただきます。

懸念として、前回と同じ方法で実施した方が経年比較できるというところはある。無作為抽出のやり方として、前回と年齢構成が同じになるように抽出するので比較しやすい。SNS 等で不特定多数に発信となると、北広島町にお住まいでない方からの回答があったり、比較的意识の高い層に意見が偏ることも考えられる。

委員

回収率の目標についてはどのくらいなのか。配っただけでは回収率は低いのではないかなと思っている。

事務局

2,000 人にお配りするが、一番いいのはみなさんに回答いただけること。前は 1,000 人対象で回収率が 50% 程度だったかなと思う。目標としては 100% を目指し、回収率を上げていくために、重要なアンケートということで情報発信をしていきたい。

補足として、前は 1,000 人対象で 47.4% で半数近くが回答している。前は WEB 回答になじみがなかったのか、WEB 回答件数が少なかったが、今は WEB で回答する人も増えるのではないかな。

総合計画のアンケートでは、50% くらいになることが多く、回答者としてはリタイア後の高齢者が多い傾向にある。

委員

このアンケートは前回も来たような気がするが、私のような子育て中の年代は色々思いはあって回答したいのに、忙しくて回答できなかったことがある。私はお店をやっていて、町内の子育て世帯と話す機会が多い。時間がない中で、お店で過ごす隙間時間を使ってみんなで話しながらアンケートに回答できれば、若者世代の回収率が上がるのではないかなと思う。以前は忙しくて回答できず悔いが残った。子どもがいると、スマホ回答でも目を離せず回答が難しいことがある。

事務局

前回の策定時には、子育て世帯からはワークショップで対面でご意見をいただいていた。今回も同じようにするかどうかというのはまだわからないが、アンケート以外で対面で意見をいただく機会というのは考えているのでまたお知らせしたい。

委員

ワークショップは以前参加したような気がするが、あまり発言したような記憶がない。そういった場があることは良いと思う。

委員

町の公式 LINE は活用できないのか。登録者数は 6,000 人くらいいたように思う。私がここに出席しているのも、LINE で見て応募したからである。若い人は紙よりスマホのほうが使いやすいのではないか。

また、調査票内の「DX」がわからない人もいると思う。用語解説があった方がいいのではないか。

事務局

注釈については入れていきたい

LINE の活用については持ち帰って検討させていただきたい。

委員

目標として何件の回答が欲しいのかによって配布数を考えるべきではないか。総数を決めて結果 50%ではなく、50%が予想されるから総数を決めるといった考え方をしたほうがいいと思う。

DX については私も思っていた。まちづくり全体を見て評価、というのもよくわからない。回答者によって解釈がちがってはいけないと思う。満足度について、選択肢の設定は同じようにしたほうがいいのではないかと思う。

スケジュールについて、1 月に事業の評価とあるが、次の総合計画を策定する上で必要なのだと思うが、現行計画と同じつくりでいいのかどうかというところについて、現行計画の評価検証のフィードバックはこの委員会ですべてほしい。パブコメでも計画を丸ごと出されても見る方はづらい。きちんと検証をしてフィードバックをしてほしい。このままでは施策分野も変わらないと思う。

事務局

アンケートについては、今回は 2,000 人で実施するが、アンケート結果だけで次の計画を決めていくわけではない。アンケートの経年比較等でどのくらいの成果が出ているのかを測るほか、ワークショップやヒアリングなども通じて現状を把握し策定につなげていきたい。

答えやすさについては修正できる部分は修正していく。

事業評価の件については、主な事業の目的や評価を各担当課にて行い、皆様に見ていただきたい。

委員長

総合計画の根本的な考え方についてはいかがか。

事務局

根本的な形については、10 年前に策定を担当した経験から言うと、第 1 次からかなり変わっている。当時はかなり委員の皆様からご意見をいただきながら大きく変わっていったので、今回も同じもので行くということではなく、委員の皆様の意見もいただきながら時代に応じて変わっていくものと考えている。

委員

現行計画の評価とはどんなことをするのか。

事務局

各事業については各担当課から評価をいただく。

委員

事業ではなく、計画そのものへの評価はどうするのか。

今の計画で10年間やってきてこれでよかったのか、施策分野の括りがこれでよかったのかというのは評価しないのか。事業計画だけではないので、どうなのか。

事務局

10年間進めてきてこれでよかったのかどうかというものも評価に含む。

進め方の話だと思っているが、事業の評価と計画の評価は別であり、事業の評価については皆様にも見ていただく。計画の構成や施策分野の括りについても、事務局案として審議会で議論していただき、時代に即さないものなどのご意見をいただきたい。この作業についてを評価検証として考えている。

アンケートの件数について、統計学的なことについて補足すると、統計学的にサンプル数が400程度あれば信頼できるというふうにされている。何件配布するかというのは事業費との兼ね合いもある。

委員

SDGsの認知度については前回もあったのか、どのように使うのか。

今は対話を重ねることが重要だと思う。ヒアリング団体の推薦についてはどこかでできるのか。

事務局

SDGsについては前回からあったもので、経年比較をしたいと考えている。

ヒアリング団体については、新たな団体や活動状況の変化があると思う。候補の団体はこちらから提示をしたうえで皆様にご意見をいただくことになると思う。

委員

アンケートの件について、5年前と同じ条件で比較することでどうなるのかを見たいというのは理解できた。

住みよい町なのかどうかを測る指標という認識だが、町として「住みよさ」をあげていきたいということであっているか。

事務局

これまでも住みたいまちづくりを進めてきた経緯があり、選んでもらえるようなまちづくりを考えている。

委員

住みよさは色々な要素があると思うが、住みよさを聞いている設問についてはこれをあげていくとい

う方向性でいいのか。

事務局

それであっている。

委員長

アンケートの変化の要因を探るのは難しい。数値の変化が町が何かをした結果なのか、そうではないのか、何を重視している人が多いのか、重視している人が多い分野に力を入れたりするという話で、設問と施策が完全に結びつくものではないが、指針にはなるものだろうということの実施するものになる。

100%これが要因というものがわからなくとも、この施策をやったことでこの数値が上がったという影響が把握できれば、施策の方向性がわかる。また、過去に比べて住民が重視しているところへの変化がわかれば取組で重視するところもみえてくるし、今後のまちづくりの参考にすることはできる。

委員

アンケート自体高齢者が回答しやすいものだと思うが、それだと高齢者の意見が通りやすくなるのではないかとも思う。子育て世代も色々思っていることはあるので、高齢者の意見が通りやすいアンケートにならないようにしてほしい。

委員長

これは長期総合計画であり、10年後にどんな北広島町になってほしいというのを考えていくもの。10年後に町を担っていくのが誰なのかは大切。北広島町の10年後がどうなってほしいかを考えて議論いただきたい。

委員

芸北エリアは数の問題でいうとどうしても弱い。合併して20年たつので、お互いのエリアのことも考えながらやっていきたい。

委員長

町としてどうしていくのか、どうあるべきかが大切。北広島町と関わるなかで、人数が多いのは千代田だが、人数が少ないところであっても、それぞれの地域が周りの人を思いやっている状況を感じている。

委員も各地域から2人ずつ選定しており、町も人口の多い少ないにかかわらず全体としてのまちづくりを意識していると認識している。

委員

学校では、この地域にどんな企業があるのかを知ってもらう取組をしている。大学では地域創生をやることも多く、その分野を志望している若者もいる。外で地域創生を学んでぜひ町に帰ってきてほしいと思っている。

北広島町では他のところと比べて地域との関わりが強く、ボランティアに手をあげる学生も多い。小さ

い子どもの頃から色々な取組を町がしており、このような地域はなかなかない。外に出ていった子どもが帰ってくるようにと思って取組をしている。

委員

11月に産業フェアをしているが、なるべく北広島町に残るか、帰ってきてほしいと思っている。

委員

林業では人材が不足している。なかなか新規採用者がおらず、入ってきても続かないことも多い。北広島町は神楽が盛んで、そこから残っている若者も多いので、文化なども踏まえて10年後に向けて考えていきたい。

委員長

産業や文化は人を引き付けるものになる。その視点も重要だと考える。

委員

人口が少ないことは目が届きやすい点でメリットにもなる。この計画がいい方に進んでいけたらいい。

委員長

大きいところと同じことをするのではなく、北広島町ならではのことをやっていきたいと思う。

委員

僕よりも若い人がたくさんいい意見を言っている。策定過程が見えないと今日のような意見の吸い上げはできないと思う。滝沢市などでは幸福実感指標を市民が作ったり、尼崎市ではまちの通信簿という形でロードマップ化し毎年評価をしている。今のようにワークショップしたから、ヒアリングしたからいいということではなく、難しいかもしれないが、そういったことを町民と共有する手法を取り入れつつ、分野ごとの目標や毎年の評価をしてはどうか。子育てなら子育て分野でそういったことをしていくと、若い人の意見が浸透していくのではないか。

委員長

町民の皆様はお客さんではないというのはいつも言っている。町民が自分たちが動かないといけない。私たちがこれをしたいから役場を動かすという考えが大切。

町民みんなで力を合わせて10年後を盛り上げる、ということをいつも言っているので、ご協力をお願いします。

委員

芸北分校の魅力化のお手伝いをしている。以前高校生と一緒にパブコメの時に色々考える取組をしていたが、スケジュールをみるとパブコメでの意見反映が難しそうに見える。住民と一緒につくるというのを大切にしてほしい。今回も計画書を読んで提案できたらいいと思う。

委員

2023 年に移住してきて、いいところだと思った。以前渋谷に住んでいた時にこどもから移住したいと言われ、ニュージーランドに移住した。その後コロナで帰国しなければならなくなり、仕事の関係で北広島町に來たという経緯があるが、自然豊かで人が優しく、ニュージーランドに似ているところがあると思った。

外から見ていいところがあるので、皆さんと 10 年後の北広島町を考えていきたい。

委員

先日アートレジデンスで海外の方に来ていただいた時に、最初の 2 週間は孤立して退屈と言っていたものが、神楽などで住民と交流する機会をつくったら楽しい、北広島町で暮らしたいと言っていた。住みたいと思ってもらえるきっかけは人のつながりだと思う。

総合計画の情報は私の年代まで下りてきていないので、情報発信を充実させていただきたい。

委員

アンケートは 10 月配布となっているが、持ち帰ってすぐ配布となるのか。次 1 月に集まる時にはアンケートももう終わった状態になるのか。

事務局

予定として書いている。今日いただいた意見を反映してそのまま、というわけではなく、印刷前には皆さんに見ていただく予定としている。

委員

対面で意見を集めるというのを検討されるとのことだが、どのように検討し、フィードバックされるのか。自分がお店をやっていることもあり、その場を使って何かできないかと思っている。

現在は移住促進会として色々やっているが、将来的にはこどもの同級生を増やしたいということで、販売に行くたびに豊平の住みよさを伝えている。そういったやり方で、情報発信や意見の吸い上げをできればと考えている。

事務局

統計的なところもあるので持ち帰って検討する部分もあるが、今後ご協力いただけることもあるかもしれない。

委員

委員名簿に資格の欄があるが、これはどういうことか。まちづくり総合委員会条例に基づいて設置されるもので、4 つカテゴリがあるので、どのカテゴリからの選出なのか明記した方がいいのではないと思う。修正して名簿を配りなおされてはどうか。公募の方もこのカテゴリに振り分けてはどうか。公募から選んだ理由が学識だったり経験を有していたりするのではないと思う。

事務局

直したものを改めて配布する。

7. その他

8. 閉会あいさつ

副町長

本日は出席いただき、活発なご意見をいただきありがとうございます。総合計画を策定していく中で、計画を作るだけでなく、この町を将来どうしていくか、ネットワークづくりや仕組みづくりも考えていければと思う。

これからはしっかり意見をきくのも楽しみと思っている。

9. 閉会